

令和 5 年度 学校関係者評価委員会 報告書

学校関係者評価委員会 委員長 武井 宗義

令和 5 年度の学校関係者評価の結果、以下のとおり報告いたします。

1、評価方法について

本校では、令和 5 年度の教育調査（保護者）と学校アンケート（生徒・保護者）の結果を肯定率で分析しました。特に、肯定率の低かった教育調査 5 点と学校アンケート 5 点について検討し、今後の対策を協議し、評価しました。

【学校関係者評価】 令和 5 年度 杉並教育調査結果（保護者） 回答率：44.0%

| 内容 | 肯定率% |
|--|------|
| 子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできることが増えている | 54.5 |
| 子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている | 67.2 |
| 子どもは、学校で障害者、外国人、性的マイノリティ等の人権に関する多様な価値観について学んでいる | 43.9 |
| 学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している | 48.1 |
| 連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている | 33.3 |
| 子どもは、児童・生徒 1 人 1 台専用のタブレット端末や学習 e ポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している | 64.6 |
| 学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている | 36.0 |
| 学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある | 29.6 |
| 学校は、子どもの日常の学びの状況や評価方法について、参観、面談、HP、お便り等により充分提供している | 58.7 |
| 学校は、欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化が進められている | 88.4 |
| 学校では、教職員、他の保護者、地域の方等とかわり、子どもの成長や学校生活について考えたり話したりすることができている | 43.9 |
| 子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている | 30.2 |
| 学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている | 25.4 |
| 子どもは、学校生活を楽しんでいる | 65.6 |

【教育調査の結果から】

分析 学校として取組がなされていても、それが保護者にまで届いていない部分があると考えられる。HP や学校だより、がくぷりなどを用いた積極的な情報発信・情報提供や、取組の時期を学校公開期間など保護者の目に触れやすい時期に移行していく。（「学びの状況や評価方法の情報提供」の肯定率はそこまで低くないので、量や頻度ではなく、内容や時期の修正を図る）

対策

1、小中一貫教育（33.3%）

- ・小中の作品交流などの取組について、時期を学校公開の期間等に充てる。
- ・小→中で学習上の共通のルールなどを設け、中 1 ギャップの軽減を図る。
 - ・めあて＝青で囲む、まとめ＝赤で囲む など細かな面での教員の取組を揃える。
 - ・タブレットの使用ルール、対応などについて発達段階を踏まえつつ、差が出ないようにする。

- ・ICT機器の操作など、9年間でどの時期に何を身につけさせるかの認識を揃える。

2、いじめ（29.6%）、子どもたちの人間関係（30.2%）

- ・HPでの情報発信を行う。
- ・学年、学校全体で対応にあたる。（情報共有の徹底）

3、学びの場や工夫（36.0%）

- ・習熟度に応じた指導（数学・英語）や不登校生徒の学びの場の提供、放課後学習の充実。
- ・毎日の日課帳（忘れないぞう）を活用した生徒と教員のコミュニケーションの充実。

4、特別支援の交流（25.4%）

- ・副籍交流の推進（現在は直接交流 1 名、間接交流 4 名）と情報発信。
- ・ポッチャ体験などを通じた特別支援教育の推進。

【学校関係者評価】 学校アンケート（生徒・保護者） 保護者回答率：44.4%

| | 質問項目 | 生徒 | 保護者 |
|---------|---|-------|-------|
| 学校生活 | 学校生活は楽しい。 | 81.5% | 74.5% |
| 教育目標 | 教育目標（ゆたかな人・ねばり強い人・たくましい人・よく考える人）について、目標として考えたり、実行しようとしていたりしている。 | 72.4% | 60.9% |
| 夢の実現 | 夢の実現のために、自分で考え、行動し、実行している。 | 76.2% | 47.4% |
| 生徒の主体性 | 自分から進んで物事に取り組むことができています。 | 80.1% | 66.1% |
| 安全安心 | 友達との違いを認め合い、皆と一緒に活動できる気遣いや工夫ができています。 | 85.6% | 72.9% |
| キャリア教育 | 地域調べ、職業調べ、職場体験、上級学校訪問、進路学習、キャリアガイダンスなどは、自分の生き方や将来を考えるのに役立っている。 | 78.6% | 76.0% |
| 体力・健康 | 学校生活を通して、体力や基本的な生活習慣が身に付き、健康な生活を送ることができています。 | 83.6% | 74.5% |
| 感染症の予防 | インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じたうえで、教育活動が行われている。 | 77.4% | 65.1% |
| 部活動 | 部活動は、実技や人間関係を学び、自分の成長に役立っている。 | 79.2% | 67.7% |
| 主体的な学び | 学校で学ぶことにより、自分から進んで学習する力が付いている。 | 79.2% | 53.1% |
| 協働的な学び | 授業では、自分が必要な時に、友達と協力しながら学んでいる。 | 84.2% | 75.0% |
| 個別最適な学び | 授業などでは自分の苦手なところを減らすために、自分に合った方法で、個別に教わるができています。 | 68.0% | 40.6% |
| ICT | 学校や家庭では、ICT 機器（電子黒板やデジタル教科書、タブレットパソコンなど）を活用して学習している。 | 78.6% | 62.5% |
| 情報モラル | 情報モラル教育や保護者の指導の下、ルールやマナーを守って、タブレットパソコンや携帯電話を使用している。 | 84.2% | 50.5% |
| 地域学習 | 地域学習やSDGsの学習に取り組んでいる。 | 69.5% | 52.1% |
| ボランティア | 地域の行事やボランティア活動に参加している。 | 47.5% | 46.4% |

【学校アンケートの結果から】

分析 生徒の肯定率がそこまで低くなく、保護者の肯定率が低い項目がいくつか見られる。この場合、①保護者への認知が広まっていない、②取り組んでいることは認知しているがその内容に納得していない、のいずれかであると考えられる。①は教育調査の分析でも記載したように、内容や時期を意識した情報発信が必要である。②については、各取組のブラッシュアップと、教員間の指導への共通認識（温度差のない指導）が必要であると思う。

対策

1、「夢の実現」のための方策やキャリア教育の充実

- ・「夢」を“職業”と捉える生徒が多いため、“なりたい姿”という共通認識をもち、定期的に振り返り活動をしながらか近付くための主体的な行動を促す。（わすれないぞう、キャリアパスポートなどの有効活用）

2、「主体的な学び」や「個別最適な学び」の充実

- ・自分で課題を選択できるような教材の工夫。（評価にも差をつけながら、能力と向上心の兼ね合い）
- ・学習後の興味・関心に応じた調べ学習などの推進。（単元後に1時間調べる活動をするなど）

3、「部活動」の充実

- ・地域人材などを活用した、部活動の推進。専門的なトレーニングやメンタルトレーニングの活用。

4、「情報モラル」の徹底

- ・企業や関係機関と連携した指導。（専門家からのモラルの必要性）
- ・教員からの一方的な指導だけでなく、生徒主体での啓発活動を行う。（生徒会や委員会などの活用）

5、ボランティア活動の推進

- ・生徒の参加意欲をくすぐる取組・参加のハードルを下げる取組。
 - 学校側の担当を一本化（地域担当）
 - 部活単位での参加
 - 各種お便り等での紹介などの取組
 - 昨年度の参加者の声